

多分まじい倫理号です。今日は雨かな？ 大陰様で仕事、忙しい毎週に封
仲りの「ライオン」が来ない、まおうとる茶に考えて封。その茶に人材の資質を聴く事も

大筆！ 喜世敏雄 阿一鳥

今週の

2021. 4. 17~4. 23

倫理

4月のテーマ | 言葉は生きている

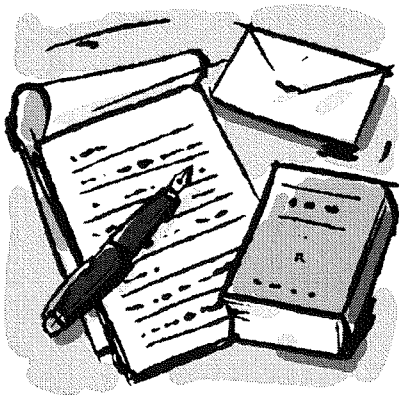
1225号

経営者のS氏は、富士高原研修所（以下、富士研）で開催された経営者倫理セミナーに初めて参加し、思わぬ発見をしました。入会后、このセミナーに参加した人たちから話を聞いて興味を持ち、「今年こそは、絶対に行くぞ」と申し込んだのです。しかし、コロナ禍で、家族の反対や社員からの否定的な反応がありました。そうした状況下でS氏は、富士研では感染防止対策を徹底していること、参加者を絞り込んで開催していることを家族や社員に力説し、半ば無理を通して参加したのです。

当日は、全国各地から約五十名の参加者が集いました。同じ倫理経営を学ぶ仲間たちとはいえ、初対面の人ばかりです。グループを編成し集団行動を共にしますが、なかなか自分の意見を口に出せません。チームワークを必要とする実習も上手くいかず、心の中に、「あの人が足を引っ張っているからじゃないのか」と、相手を責める気持ちが沸々と湧き上がってきました。

二日目は、徐々に自分自身の心と向き合っていく講座が開かれました。S氏は、日常では、ほとんど意識しない自分自身の心の声に、次第に耳を傾けていき、次のような考えに至りました。

（とても楽しみにしていたセミナーだったが、思っていたものとは違った。期待外れだった。そう思う自分があることを客観視し、なぜ楽しくないのかを考えたのです。日常生活では会社のトップを務め、経営の舵取りをしているS氏が、ここでは一介



相手を敬う素直な言葉で絆を深める

の参加者となり、思ったことが言えないでいます。普段のように、感じたことを素直に伝えることができないため、不満が溜まる一方であったことがわかったのです。

その時、以前読んだ書籍の内容が頭に思い浮かびました。

思ったことは素直に言う。思っても言わなければ相手に通じない。それは感謝の時に限らない。どんな場合でも本音を隠して、言葉に出さなければ誠意に欠ける。表現には十分気をつけなければならぬ。表現には十分気をつけなければならぬ。素直さがほしい 『丸山敏雄伝』

この気づきを得て、S氏はグループ学習に参加する姿勢を一変させました。思ったことをそのまま伝えるようにしたので、ところが、ストリートに言えば言うほど、仲間たちとの間に不協和音が響くのです。

（本音を口に出しているのに）と思った瞬間、S氏はハッとしました。会社でも、言いたいことを言っていたからです。そして、本音で話しをする中に、他者の意見を尊重する敬意と誠意があったらどうかと自分に問いかけました。（私の言動を社員たちは、どのように受けとめていたのだろうか：申しわけなかった）と深く反省したS氏。その後、グループの仲間たちに胸の内を伝え、言動を詫び、有意義な学びを得たのです。

セミナーから帰ったS氏は、無理を通して参加させてくれた家族と社員に対し、感謝の気持ちを素直に伝え、これまでの姿勢を改めたのでした。